

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

Environmental Activity Report

環境活動レポート 2020

対象期間：2019.10.1~2020.9.30

発行日：2020.12.10



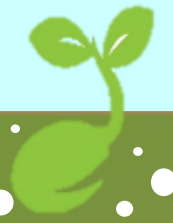
2017



2018



2019



2020

運用4年目



環境経営レポート部門

第23回 環境コミュニケーション大賞 新人賞受賞

環境活動レポート2018年版 2020.2.19 表彰状授与)

わが社のエコアクション21は、SDGsの推進とともに活動しています

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

2020年度
わが社の取り組み課題



2015年に国連で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みは企業であるわが社でも2019年度より本格的に実践をしています。

私どもは「世界を変えるための17の目標」のうち、前年の9課題から12の課題に取り組むこととしました。

エコアクション21の運用はCO₂削減を中心に、微力ではありますが、世界を変えられる一員として行動して参ります。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



13 気候変動に
具体的な対策を

化石燃料の使用削減と

CO₂の26%削減（当社2018年度比）



9 産業と技術革新の
基盤をつくらう



12 つくる責任
つかう責任

多様なプラスチックの再生方法の確立と

再資源化製品の安定供給と品質向上



11 住み続けられる
まちづくりを



14 海の豊かさを
守ろう

油漏洩処理事業を通じ、汚染範囲の最小限化を

図り、地域の環境汚染を防止



3 すべての人に
健康と福祉を



11 住み続けられる
まちづくりを

新型コロナウイルス感染拡大防止における

支援と地域行政に対する安全・防災・環境への支援



11 住み続けられる
まちづくりを



13 気候変動に
具体的な対策を

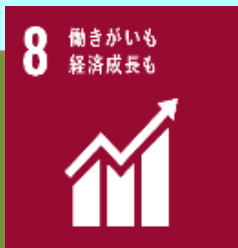


15 陸の豊かさも
守ろう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう

各地域への森林
保全活動を通じた
CO₂吸収を支援



8 働きがいも
経済成長も



10 人や国の不平等
をなくそう

障がい者、高齢者の積極的雇用と

社員満足度の向上及び安定収益の維持継続



5 ジェンダー平等を
実現しよう

あらゆるレベルの意思決定において、

女性の参加、平等なリーダーシップの機会を確保



1 組織の概要

事業所名、代表者名、創立、所在地、
資本金、環境管理責任者、事業内容、
事業規模、認証登録範囲、対象組織図

1~3 page



2 許認可

1. 収集運搬業

4 page

1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

5 page

1-2. 許認可別車両一覧

6 page

2. 産業廃棄物処分業

7 page

2-1. 産業廃棄物処分業保管場所一覧

8 page

2-2. 産業廃棄物処分フロー図

9 page

2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2020年度）

10 page

2-4. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処理の実績（2020年度）

11 page

3. 建設業（とび・土工工事業）

12 page



3 環境方針

13 page



4 環境活動計画

14 page



5 環境目標・実績

5-1. 2020年度目標及び取り組み結果

15 page

5-2. 年度別環境目標（中期3か年）

16 page



6 環境活動結果とその評価、 次年度の取り組み内容

17 page~

23 page



7 環境関連法規等の順守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

24 page

7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

7-2. 違反・訴訟の有無



8 代表者による見直しと評価の結果

25 page

8-1. 代表者による全体評価と見直し

8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い）



1. 組織の概要 *Summary of the organization*

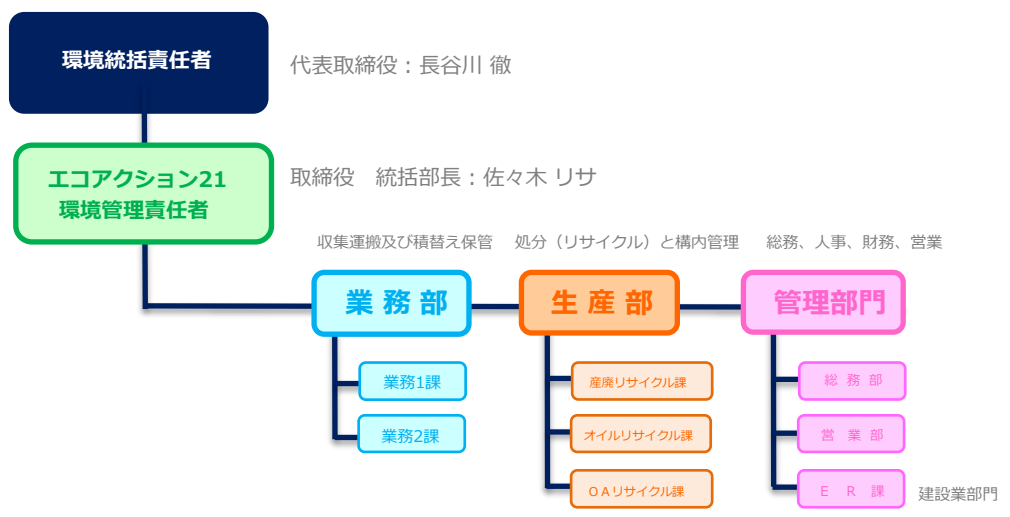
1. 事業所名 環境開発工業株式会社 (かんきょうかい はつこうぎょう)
2. 代表者名 代表取締役 長谷川 徹 (はせがわ とおる)
3. 創立 1976年 (昭和51年) 5月19日 【創業44年】
4. 所在地 北海道北広島市北の里41番地27
5. 資本金 4,800万円
6. 環境管理責任者 取締役 統括部長 佐々木 リサ
【連絡先】 TEL : 011-373-2728 FAX : 011-373-2499
E-Mail : lisa@kklp.co.jp
7. 事業内容
 - ① 廃油 (潤滑油) 収集運搬・再生重油製造販売事業
 - ② 産業廃棄物及び収集運搬・処理 (リサイクル) 事業
 - ③ 一般廃棄物及び収集運搬・処理 (リサイクル) 事業
 - ④ 特別産業廃棄物 (低濃度PCB含む) 収集運搬事業
 - ⑤ 廃OA機器、廃消火器リサイクル事業
 - ⑥ 油漏えい事故対応事業 (建設業許可 とび・土工事業)
 - ⑦ 一般貨物自動車運送事業

8. 事業の規模

活動項目		2018年度 2017.10~2018.9	2019年度 2018.10~2019.9	2020年度 2019.10~2020.9
産業 廃棄物	収集運搬量	7,345.4 t	7,796.2 t	6,956.3 t
	中間処理量	4,037.2 t	4,367.0 t	4,517.5 t
一般 廃棄物	収集運搬量	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	処理量	0.8 t	0.7 t	0.5 t
建設業	工事件数	- 件	3.0 件	9.0 件
売上 高	産廃部門	1,083.4 百万円	1,073.6 百万円	1,141.4 百万円
	建設部門	- 百万円	105.7 百万円	47.8 百万円
	TOTAL	1,083.4 百万円	1,179.3 百万円	1,189.2 百万円
従業員数		61.0 名	63.0 名	62.0 名
総敷地面積		21,099.6 ㎡	21,099.6 ㎡	21,099.6 ㎡
床面積		3,976.5 ㎡	3,976.5 ㎡	4,077.6 ㎡

9. 認証登録範囲	登録組織名	環境開発工業株式会社
	認証の範囲	再生重油製造販売事業、 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物の収集運搬業、 一般廃棄物・産業廃棄物の処理（リサイクル）業、 油漏えい事故対応事業、一般貨物自動車運送業

10. 対象組織図



代表取締役会長	<ol style="list-style-type: none"> 1.環境方針の制定及び改定 2.環境管理責任者の任命 3.環境マネジメントシステム（以下、EMS）に必要な資源の決定と提供 4.全体の評価と見直しの実施（指示）
環境管理責任者	<ol style="list-style-type: none"> 1.EMSの統括 2.環境活動計画の推進と検証 3.組織に関わるステークホルダーへの情報発信及び回答 4.環境上の問題点の明確化と解決策の提案 5.全社に対するEMSの運用、進捗状況の報告 6.担当部署内のEMSの統括
各部門	<ol style="list-style-type: none"> 1.目標及び活動計画の立案と推進 2.担当部署内のEMSの運用、進捗状況の報告 3.環境方針の理解と環境目標達成の推進 4.環境活動への積極的参加 5.担当業務で生じた環境活動に関する事項の報告

■ 構内レイアウト





2. 許認可 License

1. 収集運搬業

【産業廃棄物収集運搬業】

 取得済

- 許可番号 北海道 第00110004747号
- 許可の年月日 2014年（平成26年）6月29日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和 3年）6月28日

【特別管理産業廃棄物収集運搬業】

 取得済

- 許可番号 北海道 第00160004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）8月28日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）8月22日

許可品目	産業廃棄物区分							
	産業廃棄物			特別管理産業廃棄物				
	許可	積保	石綿含有	特管	積保	有害	PCB	石綿
燃え殻	●	-	-	-	-	-	-	-
汚泥	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃油	●	●	-	●	●	● 11種類	◎	-
廃酸	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃アルカリ	●	●	-	●	●	● 22種類	-	-
廃プラスチック類	●	●	◎	-	-	-	◎	-
紙くず	●	-	-	-	-	-	-	-
木くず	●	-	-	-	-	-	-	-
繊維くず	●	-	-	-	-	-	-	-
動物性残さ	●	-	-	-	-	-	-	-
ゴムくず	●	-	-	-	-	-	-	-
金属くず	●	●	-	-	-	-	◎	-
ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くず	●	●	◎	-	-	-	-	-
鋳さい	●	-	-	-	-	-	-	-
がれき屑	●	●	◎	-	-	-	-	-
動物のふん尿	●	-	-	-	-	-	-	-
動物の死体	●	-	-	-	-	-	-	-
ばいじん	●	-	-	-	-	-	-	-
(廃石綿等)	-	-	-	-	-	-	-	●

◎ → 低濃度ポリ塩化ビフェニル等、汚染物に限る

◎ → 石綿含有産業廃棄物を含むもの

【一般廃棄物収集運搬業】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第180号
- 許可の年月日 2019年（令和元年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和 3年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



1-1. 収集運搬業 積み替え保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業 廃棄物 収集 運搬業	保管場所1	廃油	10.00	4.80	容器保管
	保管場所2	汚泥	47.00	40.40	容器保管
	保管場所3	金属くず	10.00	6.00	容器保管
	保管場所4	廃プラスチック類	100.00	83.30	3.00
	保管場所5	がれき類	20.00	3.20	容器保管
	保管場所6	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず(廃OA機器、廃遊技機に限る)	86.00	126.00	屋内保管
	保管場所7	金属くず、汚泥、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず、廃プラスチック類 (水銀使用製品産業廃棄物であるものを含む)	18.00	9.30	屋内保管
	保管場所8	金属くず	48.58	75.78	2.90
	保管場所9	廃油	20.00	10.00	容器保管
	保管場所10	廃アルカリ	1.80	1.00	容器保管
	保管場所11	廃酸	1.80	1.00	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類、金属くず、 ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず(廃OA機器、廃遊技機に限る)	75.00	124.00	屋内保管
	保管場所13	金属くず	40.00	39.00	容器保管
特別 管理 収集 運搬業 産業 廃棄物	保管場所1	廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類)	5.96	1.931	容器保管
	保管場所2	廃油(揮発油類、灯油類及び軽油類)	10.00	4.80	容器保管
	保管場所3	廃酸(pH2.0以下のもの(廃バッテリー))	1.21	0.20	屋内保管
	保管場所4	廃酸(特定有害産業廃棄物)	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃アルカリ(pH12.5以上のもの)	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所6	廃アルカリ(特定有害産業廃棄物)	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所7	汚泥(特定有害産業廃棄物)	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所8	廃酸(pH2.0以下のもの(廃バッテリー))	1.21	0.20	屋内保管
	保管場所9	廃酸(pH2.0以下のもの(廃バッテリー))	4.84	1.60	屋内保管



1-2. 許認可別車両一覧

車両形状	台数	最大積載重量 【単位：t】		許認可別収集運搬車両台数			
				普通	特管	PCB	一般貨物
キャブオーバー	10 台	4.70 ~	11.70	10 台	10 台	10 台	3 台
タンク車	10 台	3.00 ~	12.32	10 台	2 台	2 台	0 台
塵芥車	1 台	2.40 ~	2.40	1 台	0 台	0 台	0 台
バン	9 台	0.50 ~	4.90	9 台	9 台	9 台	2 台
ステーションワゴン	3 台	0.17 ~	0.22	3 台	3 台	3 台	0 台
TOTAL	33 台	-		33 台	24 台	24 台	5 台

※産業廃棄物収集運搬業の認可を受けていない【営業・管理車両10台】は除く

環境達成区分	キャブ オーバー	タンク車	塵芥車	バン	ステーショ ンワゴン	箱型 (乗用車)	TOTAL
平成22年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	1 台	台	1 台
平成22年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成22年度燃費基準25%向上達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成27年度燃費基準達成車	3 台	3 台	1 台	4 台	台	1 台	12 台
平成27年度燃費基準5%向上達成車	1 台	1 台	台	台	台	台	2 台
平成27年度燃費基準15%向上達成車	台	台	台	2 台	台	台	2 台
平成27年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	2 台	2 台
平成32年度燃費基準達成車	台	台	台	台	台	台	0 台
平成32年度燃費基準10%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
平成32年度燃費基準20%向上達成車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
プラグインハイブリット車	台	台	台	台	台	1 台	1 台
TOTAL	4 台	4 台	1 台	6 台	1 台	6 台	22 台

全社所有車両41車中 低公害車導入率53.6% (営業車・管理車両含む)



2. 廃棄物処分量

【産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00120004747号
- 許可の年月日 2016年（平成28年）9月7日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和 3年）6月28日



【特別管理産業廃棄物処分量】

- 許可番号 北海道 第00170004747号
- 許可の年月日 2020年（令和2年）10月25日
- 許可の年月日有効年月日 2027年（令和9年）10月24日



区分	No.	処理施設名	処理能力	
			1日あたり	1時間あたり
産業 廃棄物 処分量	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	3	汚泥、廃油の油水分離施設3	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	4	汚泥、廃油の油水分離施設4	24.000 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	5	汚泥、廃油、廃アルカリの沈降施設	9.984 m ³ /日 (8h)	1.248 m ³ /h
	6	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設1	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	7	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設2	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	8	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設3	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	9	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の切断分離施設4	2.080 t/日 (16h)	0.130 t/h
	10	廃プラスチック類の圧縮施設1	4.808 t/日 (8h)	0.601 t/h
	11	固形燃料（RPF）の製造施設	4.480 t/日 (8h)	0.560 t/h
	12	廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず、 コンクリートくず及び陶磁器くずの破碎施設1	ブ 2.160 t/日 (8h) 金 3.760 t/日 (8h) ガ 4.000 t/日 (8h)	0.270 t/h 0.470 t/h 0.500 t/h
	13	廃プラスチック類、金属くず、破碎施設	ブ 4.720 t/日 (8h) 金 3.520 t/日 (8h)	0.590 t/h 0.440 t/h
	14	廃油、廃プラスチック類、金属くず （オイルエレメントに限る）の圧縮分離施設	4.320 t/日 (16h)	0.270 t/h
業 処 特 分 管	1	汚泥、廃油の油水分離施設1	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h
	2	汚泥、廃油の油水分離施設2	24.00 m ³ /日 (8h)	3.000 m ³ /h

【一般廃棄物処分量】

- 許可番号 北広島市 北広環境指令第181号
- 許可の年月日 2019年（令和元年）12月 8日
- 許可の年月日有効年月日 2021年（令和 3年）12月 7日
- 許可品目 家庭用廃パソコン、廃食用油、廃潤滑油



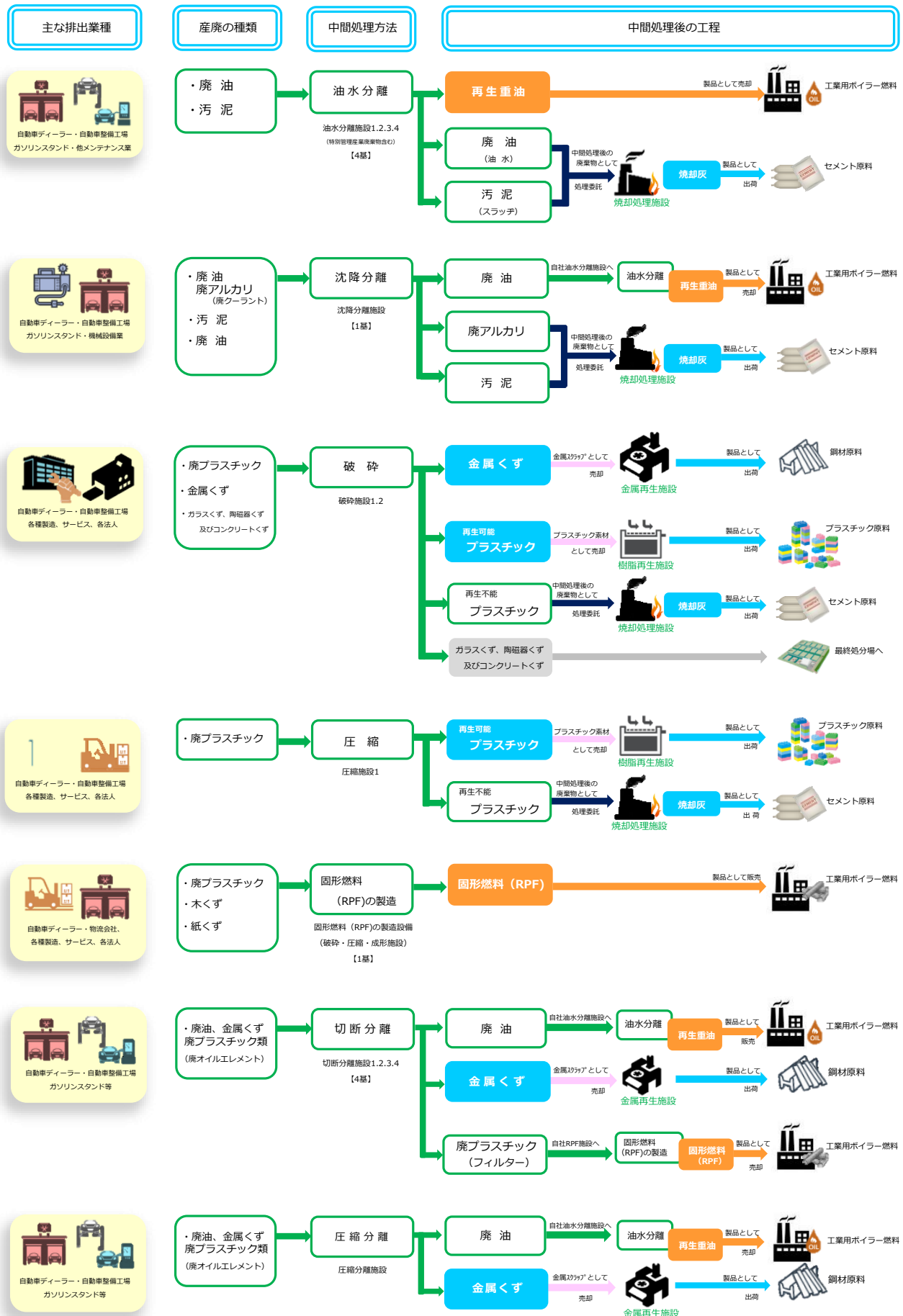
2-1. 産業廃棄物処分量保管場所一覧

区分	No.	保管場所内容	面積 単位：㎡	保管上限 単位：㎡	高さ 単位：m
産業廃棄物処分量	保管場所1	廃油	20.00	9.60	容器保管
	保管場所2	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	45.00	56.00	容器保管
	保管場所3	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所4	汚泥	1.21	0.60	屋内保管
	保管場所5	廃油、廃アルカリ (廃クーラントに限る)	31.60	33.64	容器保管
	保管場所6	廃油	4.60	7.00	屋外タンク
	保管場所7	廃油	4.60	9.00	屋外タンク
	保管場所8	廃油	40.30	200.00	屋外タンク
	保管場所9	廃プラスチック類	40.00	56.00	容器保管
	保管場所10	廃プラスチック類	9.00	10.80	屋内保管
	保管場所11	廃プラスチック類	24.94	36.12	容器保管
	保管場所12	廃プラスチック類	39.44	63.24	容器保管
	保管場所13	廃プラスチック類	23.04	36.24	容器保管
	保管場所14	金属くず	33.50	41.87	容器保管
	保管場所15	ガラスくず、コンクリートくず及び 陶磁器くず	25.52	36.08	容器保管
	保管場所16	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所17	紙くず	1.21	1.00	屋内保管
	保管場所18	木くず	24.00	12.73	0.86
	保管場所19	廃プラスチック類	17.00	18.12	容器保管
	保管場所20	木くず	30.00	30.00	2.50
	保管場所21	廃プラスチック類	15.00	18.75	2.50
	保管場所22	廃プラスチック類	100.00	162.48	容器保管
	保管場所23	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	10.00	4.80	容器保管
	保管場所24	廃油、廃プラスチック類、金属くず (オイルエレメントに限る。)	36.00	30.00	容器保管
	保管場所25	廃プラスチック類	45.00	56.00	容器保管
特別管理 産業廃棄物 処分量	保管場所1	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	4.60	7.00	容器保管
	保管場所2	廃油 (揮発油類、灯油類及び軽油類)	40.30	200.00	屋外タンク



2-2. 産業廃棄物処分フロー図

➡ 中間処理
 ➡ 当社中間処理後の処理委託
 ➡ 売却
 ➡ マテリアルリサイクル
 ➡ サーマルリサイクル
 ➡ 最終処分





2-3. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物収集運搬の実績（2020年度）

産業廃棄物		廃棄物種類	収集運搬量
		汚泥	293.1 t
		廃油	1,644.0 t
		廃酸	1.9 t
		廃アルカリ	30.2 t
		廃プラスチック類	1,456.1 t
		木くず	46.0 t
		紙くず	0.1 t
		金属くず	2,044.5 t
		ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	15.6 t
		銚さい	1.9 t
		がれきくず	15.2 t
		【混合物】廃油・金属くず	0.0 t
		【混合物】汚泥・金属くず	2.3 t
		【混合物】廃プラスチック類・金属くず	125.1 t
		【混合物】廃プラスチック類・金属くず ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	234.5 t
		【混合物】廃油・廃アルカリ	299.7 t
		【混合物】金属くず・廃油・廃プラスチック類	568.2 t
		産業廃棄物 収集運搬TOTAL	6,778.4 t
特別管理産業廃棄物		廃棄物種類	収集運搬量
		廃油	154.7 t
		廃酸（pH2.0以下）	0.0 t
		廃アルカリ（pH12.5以上）	0.0 t
		汚泥（有害）	0.0 t
		廃油（有害）	0.0 t
		廃酸（有害）	0.2 t
		廃アルカリ（有害）	0.6 t
		強酸	0.0 t
		廃ポリ塩化ビフェニル等（低濃度PCB）	1.1 t
		【混合物】強酸・金属くず・廃プラスチック類	21.3 t
		特別管理産業廃棄物 収集運搬TOTAL	177.9 t
一般廃棄物		廃棄物種類	収集運搬量
		OA機器	0.0 t
		廃油・廃食油	0.0 t
		一般廃棄物 収集運搬TOTAL	0.0 t
2020年度 収集運搬量合計			6,956.3 t



2-4. 受託した産業廃棄物及び一般廃棄物処分の実績（2020年度）

産業 廃 棄 物	廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化等
	廃油	油水分離	1,993.7 t	1,913.9 t
		沈降分離	95.3 t	
	廃油・廃アルカリ	沈降分離	329.0 t	0.0 t
	廃プラスチック類	圧縮	103.4 t	846.4 t
		固形燃料（RPF）の製造	249.7 t	
		破碎	973.5 t	
	金属くず	破碎	52.9 t	52.9 t
	ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	破碎	26.8 t	0.0 t
	木くず	固形燃料（RPF）の製造	60.3 t	60.3 t
紙くず	固形燃料（RPF）の製造	0.1 t	0.1 t	
【混合物】金属くず・廃油・ 廃プラスチック類（廃工元素）	切断分離	506.2 t	632.8 t	
	圧縮分離	126.6 t		
産業廃棄物 処分TOTAL			4,517.5 t	3,506.4 t

特 管 物	廃棄物種類	処分方法	中間処分量	内、再資源化等
	廃油（揮発油類、灯油類及び軽油類）	油水分離	0.0 t	0.0 t
	特別管理産業廃棄物 処分TOTAL		0.0 t	0.0 t

一般 廃棄物	廃棄物種類	処分方法	処分量	内、再資源化等
	OA機器	破碎	0.5 t	0.5 t
	廃油・廃食油	油水分離	0.0 t	0.0 t
一般廃棄物 処分TOTAL			0.5 t	0.5 t

2020年度 処分量合計			4,518.0 t	3,506.9 t
--------------	--	--	-----------	-----------

中 間 処 理 後 の 産 業 廃 棄 物	廃棄物種類	最終処分量	中間処分量	再資源化量
	【混合物 安定型】 廃プラ・金属くず・紙・木くず	24.3 t	0.0 t	0.0 t
	廃油・廃アルカリ	0.0 t	0.0 t	204.5 t
	廃プラスチック類	0.0 t	0.0 t	253.4 t
	廃油	0.0 t	0.0 t	154.5 t
	汚泥	0.0 t	27.3 t	0.0 t
	金属くず	0.0 t	0.0 t	22.4 t
	汚泥・金属くず	0.0 t	0.0 t	0.6 t
	ガラスくず・ コンクリートくず及び陶磁器くず	54.3 t	0.0 t	0.0 t
	木くず	0.0 t	0.0 t	0.0 t
	がれき屑	0.0 t	0.0 t	4.4 t
	廃アルカリ	0.0 t	4.4 t	0.0 t
	廃プラスチック類・金属くず	0.0 t	0.0 t	8.9 t
2020年度 中間処理後の処分量合計		78.6 t	31.7 t	648.7 t



3. 建設業（とび・土工事業）

- 許可番号 北海道知事許可（般-31）石第23289号
- 許可の年月日 2019年（平成31年）4月5日
- 許可の年月日有効年月日 2024年（令和6年）4月4日

建設業の許可票			
事業者名称	環境開発工業株式会社		
代表者の氏名	代表取締役 長谷川 徹		
一般建設業又は特別建設業	許可を受けた建設業	許可番号	許可年月日
一般建設業	とび・土工事業	北海道知事許可 第23289号	平成31年4月5日
この許可が適用している建設業	とび・土工事業		

積雪寒冷地の道内では年間200件以上の燃料油漏洩事故が発生していると言われ、その対応や処置が遅れることで、土壌や河川の汚染に繋がってしまいます。

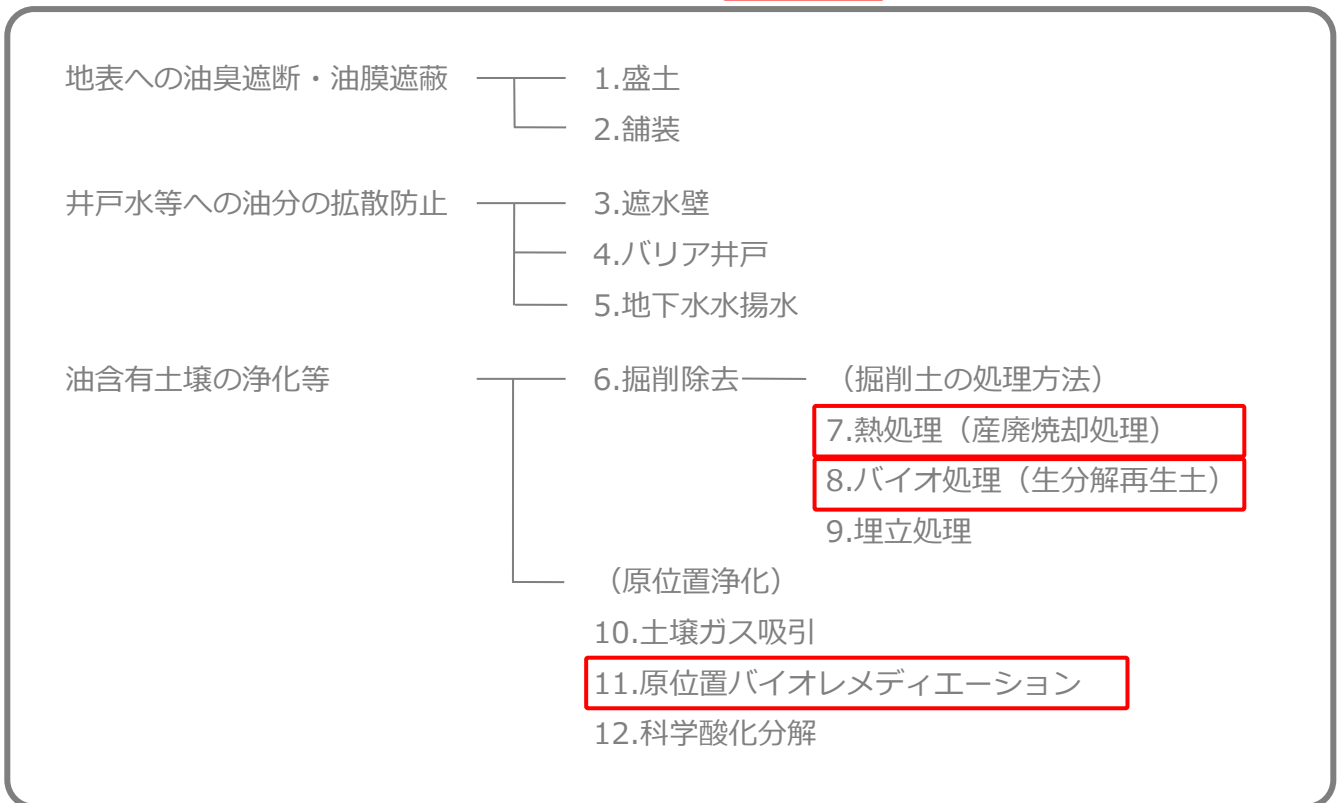
私どもは、長年培ってきた廃油の再生事業や産業廃棄物処理事業のノウハウを生かし「油漏洩対策」にも本格的に力を注ぐため、昨年建設業の許可を取得しました。

「油漏洩対策」はおおよそ13種類の方法があると言われていますが、当社では主に3種の方法で対応、中でも「**バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法**」（※環境省認可済）を中心に事業を進めております。

【主な漏油処理方法13種類】



当社が採用している漏洩対策



「バイオレメディエーション 生物学的環境修復工法」とは？

微生物や菌類、植物等を利用して有害物質に汚染された自然環境を元の状態に戻すことを意味します。

- 油を食べる微生物を利用した生分解剤を使用
- 微生物は無害で、食べる油分がなくなると死んで土に還る

※施工事例詳細は、18ページの4. 環境配慮・貢献活動をご覧ください



バイオレメディエーション工法で使用している2種の生分解剤

3. 環境方針 *Environment Policy*

基本理念

Basic Principles

環境開発工業株式会社は廃棄物処理、リサイクルを主な事業としており、事業そのものの中で不適切な遂行は、直接重大な環境破壊や汚染を招く事を強く認識・自覚し、当社の最大能力を尽くして適正処理・環境負荷軽減を実行し、『より良い環境を次世代に継いで行く』事をモットーに社会貢献してまいります。

行動指針


Guidelines for action

- 1 環境理念を実現するため環境目標を設定し、環境負荷低減活動を実施します。
- 2 環境関連法及び当社が同意するその他の要求事項を確実に遵守します。
- 3 廃棄物排出量の抑制・埋立・焼却処分の最小化、さらに廃棄物のリサイクル化、再資源化を図り省資源・省エネルギー・CO₂削減、環境負荷の最小化に努めます。
- 4 環境方針、環境目的、環境目標は、必要に応じて改訂します。
- 5 環境方針は文書化し、全従業員に周知するとともに、関係お取引先を含め一般に公開します。

2020年6月6日 制定

環境開発工業株式会社

代表取締役

長谷川 徹 

4. 環境活動計画 *Environmental activity plan*

1 二酸化炭素排出量の削減

- ◆ 産業廃棄物収集運搬車輛におけるエコドライブの促進と燃費向上に努める
- ◆ 製造・処理施設及び事務所等構内各所における電気及び化石燃料使用の低減

2 省資源の促進

- ◆ 水を扱うすべての構内において節水を意識し、使用量を削減する

3 資源循環の向上と埋立量削減促進

- ◆ 再生資源化品の生産量向上に努め、循環型社会形成に貢献する
 - ① 廃油の再生重油化
 - ② 廃プラスチック類のRPF（固形燃料）化
 - ③ 鉄、非鉄スクラップの素材化
- ◆ 廃プラスチック類の分別及び選別の徹底により、埋立廃棄物の削減を図る

4 環境配慮製品の利用推進と導入

- ◆ 地球環境に配慮したバイオ製剤の利用
- ◆ 環境負荷低減に配慮したグリーン購入品の促進
- ◆ 車両入替時による大気汚染物質の排出が少ない低公害車導入の配慮

5 次世代に繋がる環境貢献活動の推進

- ◆ 「SDGs」が掲げる17の目標のうち、12個の推進と実行
- ◆ 「森とアースへのエコプロジェクト」の賛同による森林維持及び保全活動の支援
- ◆ 構内から発生する油脂の除去及び構外への漏洩防止
- ◆ 近隣地域及び社会への貢献可能な寄付活動

5. 環境目標・実績 Environment target & Performance

5-1 2020年度目標及び取り組み結果

環境目標項目	単位	主幹部門	前年度実績	今年度目標値	達成手段	今年度実績	目標比	評価		
			2018年10月～ 2019年9月	2020年度		2019年10月～ 2020年9月				
二酸化炭素排出量削減	ガソリン	ℓ/年	管理部門	19,891.1	21,352.0	アイドリング時間の削減	20,240.2	-1,111.8	◎	
	軽油	ℓ/年	業務部	211,745.4	228,871.0	急加速・急ブレーキの抑制	235,456.6	6,585.6	×	
	灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	21,909.6	21,969.0	ウォームアップの推進	24,579.5	2,610.5	×	
	重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	82,000.0	78,000.0	計画通り	78,000.0	0.0	◎	
	LPG	kg/年	オイルリサイクル課	40.0	80.0	ボイラ使用時の着火源の為、現状維持	60.0	-20.0	◎	
電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	391,222.0	380,177.0	第3工場新設に伴い今期要観察	428,308.0	48,131.0	×	
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	-	1,143,123.0	1,173,543.0	*****	1,216,734.5	43,191.5	×	
収集運搬車両 燃費向上		km/年	業務部	3.7	3.9	急加速・急ブレーキの抑制	3.7	-0.2	△	
省資源	水の使用量削減		生産部 管理部門	1,970.0	1,766.0	RPF燃料製造時の冷却を スプリンクラー仕様に変更	1,713.0	-53.0	◎	
資源循環・埋立削減	再生資源製造 出荷量	再生重油	オイルリサイクル課	10,119.0	9,311.0	廃油収集量前年同等であるため、要観察	10,371.2	1,060.2	◎	
		RPF(固形燃料)	産廃リサイクル課	713.0	680.0	原料分別強化	863.3	183.3	◎	
		非鉄・金属	OAリサイクル課	2,881.0	3,600.0	分別エリア変更に伴い、手法向上	2,894.7	-705.3	×	
	廃プラスチック類の 中間処理後の埋立量削減		t/年	産廃リサイクル課	23.7	12.0	分別強化により、RPF原料ヘシフト	23.1	11.1	△
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	503.0	100.0	原因者に対する浄化処理方法へ 提案、促進	274.0	174.0	◎
	グリーン購入 (環境配慮製品含む)		種/年	総務部	18.0	10.0	購入時に優先検討	11.0	1.0	◎
	低公害車導入	所有車購入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	2.0	1.0	車両入替時に検討	2.0	1.0	◎
環境・社会貢献活動	森林維持 保全活動	森とアースへのエコ プロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	オイルリサイクル組合との共同参加支援	0.0	-1.0	◎
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	企画部	27.0	10.0	構内油漏洩防止対策による構内洗浄	26.0	16.0	◎

【評価記号】 ○ ⇒ 目標達成及び次年度継続 ▲ ⇒ 目標未達成であるが、要観察として目標値維持 × ⇒ 目標値変更

5-2 年度別環境目標（中期3か年）

環境目標項目	単位	主幹部門	初年度実績 2017年10月～ 2018年9月	中期目標値				
				2018年度	2019年度（今年度）	2020年度		
二酸化炭素排出量削減	化石燃料使用量	ガソリン	ℓ/年	管理部門	21,788.0	23,160.0 21,352.0 是正值	22,692.0 21,570.0 是正值	21,352.0
		軽油	ℓ/年	業務部	230,021.0	217,584.0 228,871.0 是正值	213,228.0 229,331.0 是正值	228,871.0
		灯油	ℓ/年	生産部 管理部門	22,191.0	16,824.0 21,969.0 是正值	16,488.0 22,191.0 是正值	21,969.0
		重油	ℓ/年	オイルリサイクル課	78,000.0	64,680.0 78,000.0 是正值	63,384.0 78,000.0 是正值	78,000.0
		LPG	kg/年	オイルリサイクル課	80.0	60.0 80.0 是正值	60.0 80.0 是正值	80.0
電力使用量	工場・施設	kwh/年	生産部 管理部門	387,936.0	339,576.0 380,177.0 是正值	332,784.0 384,057.0 是正值	380,177.0	
二酸化炭素排出量		kg-CO ₂ /年	*****	1,183,437.0	1,088,280.0 1,173,543.0 是正值	1,066,512.0 1,173,543.0 是正值	1,173,543.0	
収集運搬車輛 燃費向上		km/年	業務部	3.4	3.9	3.8	3.9	
省資源	水の使用量削減		m/年	生産部 管理部門	1,784.0	990.0 1,784.0 是正值	970.0 1,766.0 是正值	1,766.0
資源循環・埋立削減	再生資源製造出荷量	再生重油	kℓ/年	オイルリサイクル課	9,955.0	9,000.0 9,311.0 是正值	9,000.0 9,311.0 是正值	9,311.0
		RPF(固形燃料)	t/年	産廃リサイクル課 OAリサイクル課	658.7	680.0	650.0	680.0
		非鉄・金属	t/年		3,169.0	3,480.0	3,480.0	3,600.0
廃プラスチック類の中間処理後の埋立削減		t/年	産廃リサイクル課	41.8	12.0	24.0	12.0	
環境配慮製品の購入	環境配慮製品促進	バイオ製剤販売促進	本/年	ER課	438.0	100.0	100.0	100.0
	グリーン購入（環境配慮製品含む）		種/年	総務部	11.0	10.0	10.0	10.0
	低公害車導入	所有車輸入替時による導入促進	件/年	業務部 管理部門	3.0	1.0	1.0	1.0
環境・社会貢献活動	森林維持保全活動	森とアースへのエコプロジェクト支援	回/年	企画部	1.0	1.0	1.0	1.0
	環境美化維持	構内外の清掃活動	回/年	企画部	6.0	10.0	8.0	10.0
	取引顧客のリサイクル活動の支援促進	取引顧客に対するリサイクルデータ配布数	件/年	営業部	配布飽和状態につき、近隣地域及び社会貢献としての寄付活動に変更 今期：5件実施			

■ 電力算出係数 北海道電力2015年度0.676t-CO₂/Kwhを使用

■ 中期目標値表記の是正值については「2018年度代表者による全体見直し時に再設定した数値である

6. 環境活動結果とその評価、次年度の取組み内容

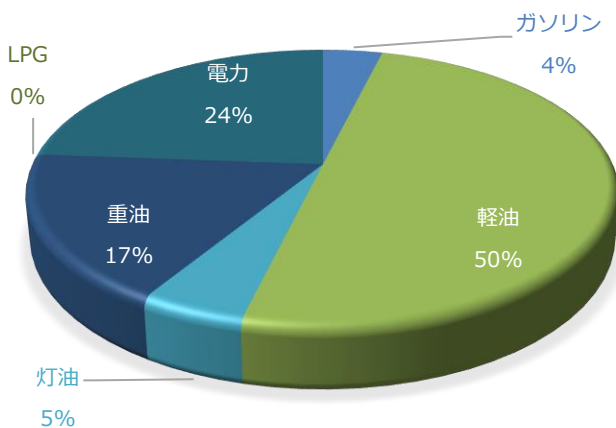
Results of environmental activities and their evaluation, efforts in the next fiscal year

運用4年目に入り削減目標を高く設定したものの、旭川エリアの回収範囲拡大に伴い軽油消費が増えたが、コロナウィルスの感染防止による営業活動自粛によってガソリン消費量が大幅に減少した。但し構内で消費する電力や灯油については、破碎のフル稼働及び廃プラスチック類の風選設備新設に伴い、電力消費に加え、洗車場の新設及び構内油洗浄のために使用するボイラの稼働で灯油の使用が大幅に増えた。

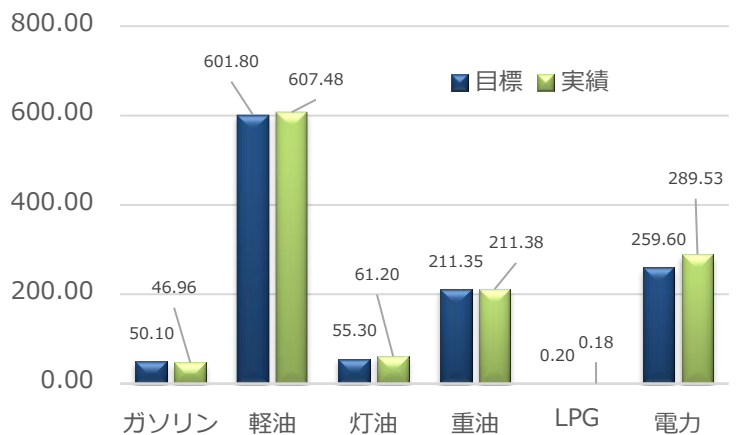
1. 二酸化炭素排出量削減

2020年度	エネルギー使用量 (t/年)			CO ₂ 発生量 (t-CO ₂ /年)		
	目標	実績	差異	目標	実績	差異
ガソリン	21.35	20.24	-1.11	50.10	46.96	-3.14
軽油	228.87	235.45	6.58	601.80	607.48	5.68
灯油	21.96	24.57	2.61	55.30	61.20	5.90
重油	78.00	78.00	0.00	211.35	211.38	0.03
LPG	0.08	0.06	-0.02	0.20	0.18	-0.02
電力	380.17	428.30	48.13	259.60	289.53	29.93
TOTAL	730.43	786.62	56.19	1,173.54	1,216.73	43.19

【① 使用エネルギー別 CO₂排出量構成率】



【② 使用エネルギー別 CO₂排出量目標対比】



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標

【わが社が取組むSDGs課題】



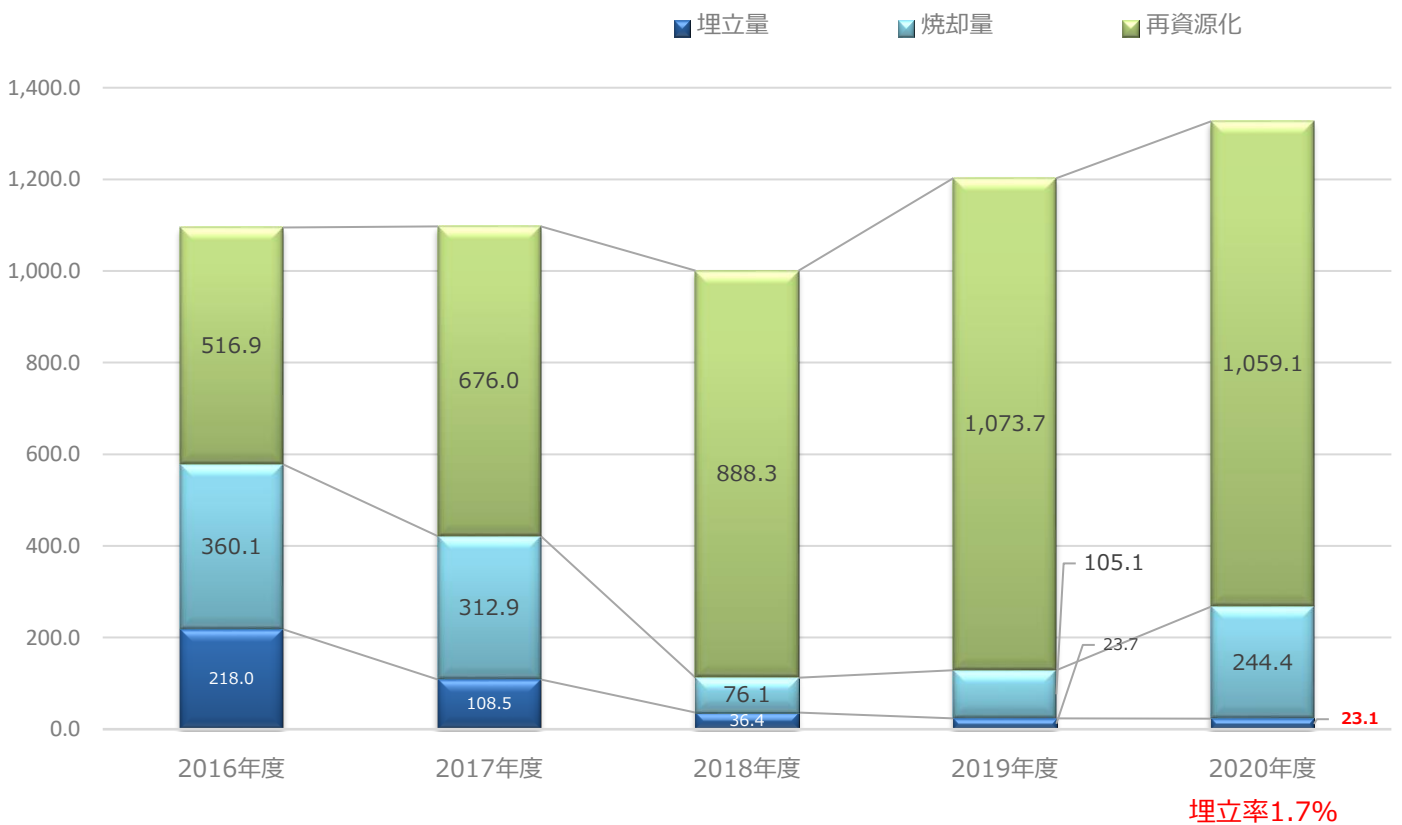
達成には程遠し・・・
次年度大幅見直し

2. 省資源の促進・節水

前年はRPF製品の「天かす火災」を防止するため、製品保管場所を常時散水していたが、事実上垂れ流し状態であった。今期は専用箱に水を張り、その中に出来上がった製品を投入し、水で冷却させた。これにより水を何度でも使用することが可能となり、前年比較で53m³もの量を削減することが出来た。次年度はさらに工夫を重ね、水資源の有効活用を図るものとする。

3. 資源循環・埋立削減

昨年3月より「二軸式破砕機」を導入し、本年は排出口からRPF設備までを風で送る装置も製作し、RPF製品の大幅増産となった。
特に、埋立率は全体量の1.7%にまで引き下げることが出来た。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標
【わが社が取組むSDGs課題】





4. 環境配慮・貢献活動

前年に引き続き、環境配慮製品を使用した「油漏洩事故対策」の受注が大きく伸び、現地で浄化することで廃棄物排出の抑制にも貢献した。

油漏洩は処置が遅れることで汚染範囲が広がり、施工期間も長くなることから、即時に施工対応する必要があります。わが社では油を取り扱うPROとして、漏洩範囲の抑制と環境汚染防止に努めて参ります。

灯油が流出された直後の河川



虹色になっている油膜

汚染範囲を拡大させないため、吸着マットを設置

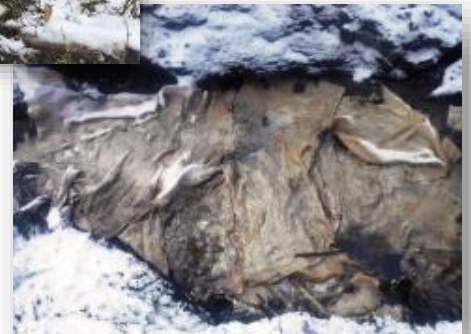


灯油を吸収した吸着マット

オイルスポンジ



(生分解性粉末油吸着材)



汚染現地にて汚染土に直接散布



整地・埋め戻し

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標
【わが社が取組むSDGs課題】



大いに貢献

5. 環境・社会貢献活動

■ 構内環境美化と維持

前年より強化している構内の油漏洩対策の一環として、油水分離槽、グレーチングの増設、排水路の変更工事を実施し、構外に油を流出することを徹底的に防止する対策を講じた。
また、ノルマルヘキサン値の測定も定期的を実施し、基準値以下を保っています。



■ 働く環境の整備

今期は老朽化していた会議棟を新たに建て替え、あわせて老朽化していた事務所の外壁工事も実施し、コーポレートカラーであるネイビーを基調としたカラーリングで構内の美観を一新した。
新築された会議棟は旧会議室のおよそ3倍に拡張され、終息がみえないコロナ禍でも「密」を防いだ会議の開催が可能となった。

新築した会議棟



本社事務所外観



第二工場（OA機器処理）外観



■ 深刻なマスク不足を支援するため北広島市へ寄付

新型コロナウイルスの感染拡大により、深刻なマスク不足に陥る中、長年取引のある企業よりサージカルマスクと医療用マスクを調達。特に医療、介護、救護に従事する方々にお役立ていただきたく、地元企業として支援させていただきました。

コロナウイルス感染終息はまだ見えてきませんが、マスクをすることで少しでも感染リスクを抑え、一日も早く以前の日常が戻ってくることを望みます。

2020年5月15日 当社長谷川会長が北広島市役所を訪問、上野北広島市長より感謝状をいただきました



北広島でも4万枚
環境開発工業寄付
【北広島】市内の産業廃棄物処理業、環境開発工業は、新型コロナウイルスの感染拡大により医療機関などでマスク不足が深刻になっていくことを受け、市にマスク4万枚を寄付した。同社の長谷川徹会長が15日に市役所を訪れ、「地元企業としてお役に立てれば」として上野正三市長に目録を手渡した。市は市内の医療機関や福祉施設などに配布した。
(阿部里子)

北海道新聞（2020年5月20日）に掲載されました

善行者表彰式にて盾が授与されました



令和2年度 北広島市功労者・善行者表彰式に中山常務が出席いたしました

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

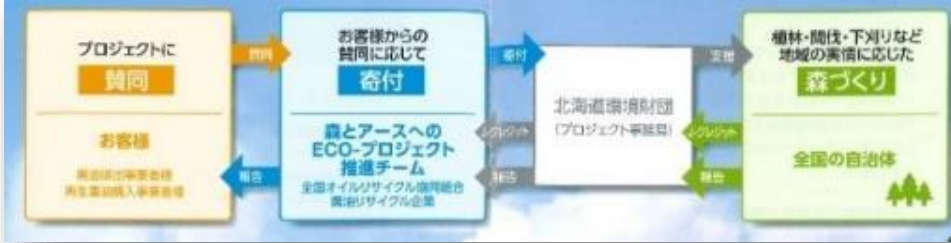
【わが社が取り組むSDG s 課題】





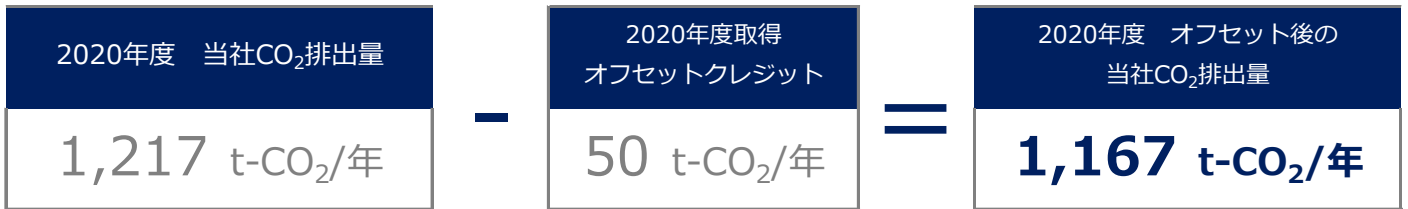
■ 森とアースへのecoプロジェクトへの参加と「Jクレジットの還元」

2014年度より「森とアースへのエコプロジェクト」が開始され、今年度で6回目の参加となり、支援することで得た50 t-CO₂/回のクレジットは今回大幅に超過してしまった自社のCO₂をオフセットするために使用しました。当社の主力事業である廃油リサイクルを今後も日本各地の森づくりにお役立ていただき、少しでも多くのCO₂が吸収されることを願います。



今年度は、静岡県、新潟県村上市、東京都檜原村、兵庫県宍粟市、鳥取県智頭町の1県4市町村と連携し、各地の実情に応じた森林保全活動を実施しました。

【プロジェクトに賛同して得たクレジット使用後のCO₂排出量】



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

【わが社が取り組むSDG s 課題】





環境コミュニケーション大賞 新人賞を受賞しました

2018年11月28日発行（発行2年目）の環境活動レポートが「第23回環境コミュニケーション大賞」の新人賞を受賞し、2020年2月19日に品川プリンスホテルで表彰式が行われました。表彰式には、環境管理責任者である佐々木統括部長が出席、新人賞の賞状が授与されました。



また、今回の新人賞に選出していただいた審査員の方々から以下の評価をいただきました

23回環境コミュニケーション大賞 受賞事業者評価コメント

部門名：環境経営レポート部門

賞名：新人賞

環境開発工業株式会社：環境活動レポート



廃棄物処理・リサイクルを行っている従業員数61名の会社である。

ISO14001の規格改訂をきっかけにエコアクション2.1

の取組を開始し、認証・取得より1年経過したところであるが、

レポートは図表、グラフ、写真等が多用され、分かりやすく簡潔にまとまっている。

ただし、若干、図表の文字が小さくて見難い箇所があるので、その点は改善が望まれる。

独自の環境目標として、4種類の再生資源製造出荷量、リサイクルデータの配布数

（顧客のリサイクル活動の支援促進）を掲げていること、また、代表者による見直しと評価の結果において、代表者による適切な評価がなされ、代表者の思いが伝わることも高く評価される点であり、全体を通じて、同業他社の手本となるものである。



7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

Compliance

7-1. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価結果

法律・条令	遵守事項	遵守評価
廃棄物処理法	委託契約書の締結	◎ 全顧客契約締結及び原本5年間保管
	マニフェスト伝票の管理	◎ 原本5年間保管
	処分保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	積替え保管量の遵守	◎ 適正保管量、期間の遵守
	運搬車の表示と許可証写、マニフェスト携帯	◎ 全許可車両遵守 車両2車新規追加
	収集運搬業内容の変更	◎ 2020.8 優良認定にて許可更新
	処分業内容の変更	◎ 2020.10 優良認定にて許可更新
	処理施設内容の変更	◎ 変更なし
	産業廃棄物処理施設実績	◎ 2020.6 北海道へ報告
	産業廃棄物処理実績	◎ 2020.6 北海道へ報告
	産業廃棄物管理票交付等状況	◎ 2020.6 北海道へ報告
	産業廃棄物収集運搬実績	◎ 2020.6 札幌市へ報告
	建設リサイクル法	コンクリート廃材、アスファルト廃材及び廃木材の分別及びリサイクルの促進
騒音・振動	特定建設作業（工事）に伴い発生する騒音・振動	◎ 特定建設工事の請負実績なし
大気汚染防止法	炉筒煙管、水管ボイラ 煤塵、Sox、Nox 3項目の2回以上/年の測定	◎ 基準値内
フロン排出抑制法	事務所内業務用エアコンの 定期点検（4回/年）	◎ 2020.8 定期点検実施
海洋汚染海上災害防止法	事業実績報告	◎ 2020.10 北海道運輸局へ年次事業報告
家電リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 今期は家電廃棄なし
自動車リサイクル法	リサイクル券の発行	◎ 車両2台導入 リサイクル料金購入時清算
消防法	危険物施設、設備	◎ 2020.10月 年次立入検査 特段、指摘事項なし
北海道公害防止条例	騒音・振動発生施設 コンプレッサー：2基 遠心分離機：2基	◎ 既存設備以外の届出発生なし

7-2. 違反・訴訟の有無

特にありません。



8.代表者による全体の評価と見直し

President evaluation

8-1. 代表者による全体評価と見直し

【環境方針】 変更有無 ⇒ なし

本方針は当社の企業理念を軸にし、事業内容とマッチングしているため、当面は本方針をベースとして運用を行う。但し、環境方針とは別途「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時並行する。

【環境活動計画】 変更有無 ⇒ あり

5.次世代に繋がる環境活動の推進

「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に向けた取り組みも同時に遂行する。

【環境目標】 変更有無 ⇒ あり

■二酸化炭素排出量削減 化石燃料使用量

次年度の中期計画見直し時に化石燃料の取扱いについて大幅に見直す。特に軽油使用量については、回収範囲の拡大に伴い、単純な使用量ではなく使用率も鑑みながら、目標値を設定する。

■再生資源製造出荷量 RPF燃料製造量 変更有無 ⇒ あり



顧客より指定されている塩素基準値を遵守するため、塩素含有量が多いと思われる原材料を排除するため製造量が減少すると予測される。完全特定するまで今期同様の製造量にはならないと思われるため、製造量の目標値を見直す。

8-2. 本プログラムの運用を通じて（代表者としての思い）

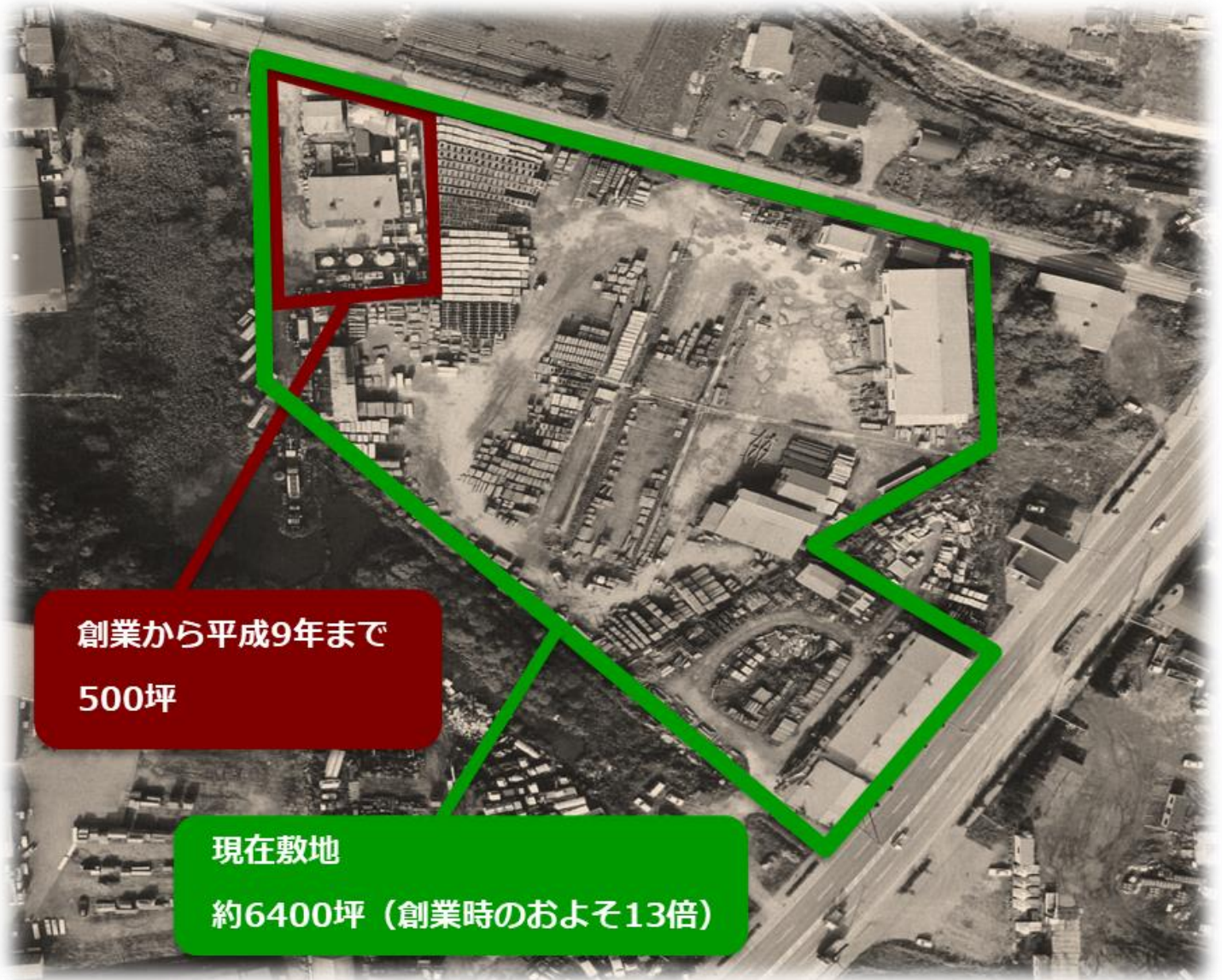
本年は「SDGs」の取り組みを合わせたプログラムの運用となったが、新型コロナウイルスによって例年とは異なる動きとなり、計画した目標がすべて順調に遂行したとは言い切れず、次年度の目標設定は今期の実績を細部まで分析したうえで計画しなければならない。特に先日行われた首相所信表明演説の中では、「温室効果ガス排出量を2050年までに実質ゼロ」とする目標が宣言され、化石燃料や電力の使用量は長期的視野で見直し、設備投資を含めた検討が必要である。

環境開発工業株式会社

代表取締役



To view the past with nostalgia 昔を懐かしむ・・・



創業から平成9年まで
500坪

現在敷地
約6400坪（創業時のおよそ13倍）

創業当時



事務所



廃油回収車輛




マスコット犬の朝太郎



NEXT Step 2021

2020.10.1~2021.9.30

 Create the Future
環境開発工業株式会社

